レポート

終了後の…ってどういうこと?



そう、12月11日に、全4回の講座を終えて、あつた小ネタ新聞も完成して、終わったんじゃないの…?

はい、**終わりじゃなかったんです**。

その後のことを、このレポートで追跡したいと思います!!



その1 熱田図書館に あつた小ネタ新聞掲示







講座を共催してくださった名古屋熱田図書館で、小ネタ新聞を掲示してくれました。お伺いしたときは、熱田資料コーナーの入口付近にズラリと並び、色んな小ネタが一目瞭然。

これを見た方が、「熱田に住んでるけど、こんなのもあるんだ~。知らなかった~」と 思ってくれたら、小ネタ冥利に尽きますね。

その2 KNT理論の中村先生、来名 地まちCampus

KNT理論(KONETA=小ネタ) 「小ネタが尽きない限り、地域は持続する」という考え

KNT理論、ご存知ですか…?

まちづくりびと講座の中で、何度も引用させていただきました。東京大学社会科学研究所で提唱されている理論です。KNT=小ネタなんて、クスっとしますが、中身はとっても真面目で、地域への希望に溢れた理論ですよね~。

その先生が都市センターに来ていただけることになったんです。それは行かなくちゃ!





これがチラシですね。 まちがいいメガネ講座 との繋がりも。



前座 まちがいいメガネ講座で やったことの紹介





あれ?総合ナビゲーター だった井村さんが いるよ?!

"小ネタちゃん"の 潜入レポート!





中村先生の登場に先立ち、まちづくりびと講座「まちがいいメ ガネでまちを見てみよう | の取組を、紹介する時間をいただき ました。

講座の企画とKNT理論との出 会いや、講座の中でどんなふ うに小ネタを見つけて、小ネ タ新聞にしていったかをお伝 えしました。



中村先生も赤いメガネで... 「曇らないのが素晴らしいですね^^」

中村先生のお話 ~ささやかなきっかけが大切~

さて本日のメイン。中村先生のお話が始まりま した。「今日ここに集まっている人は、地域に 関心があると思いますが、実は地域のことを考 えている人って、意外と少ない。地域に関心 をもつには、"ささやかなきっかけ"が大切。 例えば"地域の誰かと知り合い" しみたいなこと

でもいい…



そのあと、中村先生が別のプロジェクトで関わった、よしもと の"住みます芸人"(47都道府県にいて活動しているそうで す。)の方が、地域での活動について話している動画を視聴。

「芸人だから、知らない人にでも気軽に話しかけることができ る。まちで、どんどん話しかけている。そうしているうち、僕 に興味を持ってくれる。そのうち仲良くなり、僕が開発した商 品を買ってくれるようになったり。」というお話をされていま した。

"住みます芸人"は、最初はそういうささやかなきっかけを作っ て、地域のとの関係づくりをされているんですね。

「小さなタネ」 そして作詞に挑戦

中村先生は、小ネタについて様々な取組をされており、 小ネタについての歌、「小さなタネ」を、吉本興業シ ンガーソングライターのサトウヒロコさんと一緒に作 詞されたということ。

この日は、サトウヒロコさんも会場に来てくださり、 まずはその歌を披露。ギターの音と、真っ直ぐな歌声 が、ホールに響きわたりました。







▲「小さなタネ」は こちらから聴け ます

そして中村先生から、「今からみんなも作詞をしてみ ましょう。言葉を考える、それが歌になるっていう経 験はすごくて、みなさんに体験してもらいたい。

自分の大好きなまちのことを伝えたいときに、あれも これも、ではなくて、引き算の視点で考えてみてくだ さい。|

ということで、みんなで作詞に挑戦するワークが始ま りました。

作詞のワークショップが 始まりました



「小さなタネ」× あつた小ネタ新聞

思い難いた理想の自分に 今の私はなれているかな? 通去の自分と比べたりして 輝く明日は滲んでいく がむしゃらに走り続けた日々に 雑はないからまだ見ぬ! 信じられる だから行ける 動き出す物語 直たり倒みたいに関い合えること かけがえのない実物 ずっと言いたかった あなたへ帰るよ ありがとう 異然でも巡り会えた 小さなタネはきっと世界中に広がって輩 立いて実って関んだ夢と 小さな希望のタネを育てよう 今生きる 輝く場所

> √「小さなタネ」 の歌詞

概ね4人が1グループにな って、新聞に書かれている



ていきます。

作詞の題材は、冒頭でご紹介させていただいた"あつた小ネ

タ新聞"。「自分が知らない地域について、違う人が作った

新聞を題材に、その思いをくみとって表現する」という作業

に、グループで取り組んでみます。

ことを読み取ることから

始めました。

▲あつた小ネタ新聞(一部抜すい)。 これを歌詞にしていきます

先程、サトウヒロコさんが披露してくれた 「小さなタネ」のメロディに合うように、 小ネタ新聞から歌詞に入れたい言葉を拾っ

J p V



自分が作った紙面ではない、知らない地域の新聞。そこから、伝えたいことや大事なこと、魅力 的なことを読み解き&削ぎ落とし、歌詞にしていく作業は、始めての体験。伝えたいことが、メ ロディに合うか、文字数を指折り数えて、ああでもない、こうでもない…。

♪できた歌詞を 歌ってみよう♪



その後、各グループから作詞に込めた思 いやポイントを発表してもらい、サトウ ヒロコさんがその場で歌ってくれました。

「自分たちの作詞が歌に!」 一緒に作業し た人と一緒に小さな達成感を味わい、みん な自然と笑顔に。また、熱田にこんなとこ ろがあったんですね~など、熱田への愛着 が深まった様子も感じられました。

小ネタ新聞の全部のネタが、歌になった! なんだか嬉しい~!!



締めのお話

最後に、中村先生から、締めくくり。

それは、KNT理論のエッセンス、小さなきっかけへの思いが詰まっているお話でした。



KNTの大事なところ! しっかり聞かなきゃ! メモ、メモ!

まちづくりや地域づくりは難しい。名古屋もリニアができたら、きっと、新しい建物ができたり、大きなイベントが行われたりする。だけど、そういうことと、こんな作詞みたいな小さなこと。どっちが大切だろうか。

大ネタは小ネタの積み重ね。地域での関係性がないと、大きなイベントをやろうとするとき、その 準備で疲弊してしまうっていうことがある。普段から小ネタを積み重ねて「これならあの人に頼も うと」か、そういう関係性ができている地域なら、より大きなイベントも疲弊しない。

家族等の間柄でも、「海外旅行に行く」とか、「新しいクルマを買う」とか、そういう大きなイベントよりも、まずは普段の何気ない会話が、家族仲には大事ですよね。

地域も同じ。人と人との些細なつながりや、地域への思いを、コツコツ積み重ねていくのが大事。 今日のワークも、「これをやれば、すごく街がよくなる」とか、そういうわけではないが、こういうこと をみんなでやって「楽しかったよ」と、感じる。それがきっかけとなり、積み重なって、まちが、良いほ うへ変わっていく。

シビックプライドっていう言葉があるけど、「大好き」っていう強い 思いでなくてもいい。どんなまちでも、いいとこばかりではないから。 ただ、「愛着」は、ある必要がある。

自分たちのまちのことを知るっていうことが、愛着を生む一つのポイントかと思う。

自分の地域の、ちょっとしたことを、知る。 それが、小ネタで地域の愛着を育てるっていうことだと思う。



KNTは続く!

都市センターのホールに、ギターの音が鳴り響いたり、作詞をしたり歌ったり…。これまでにない会でしたが、実際に「小ネタをやってみる」=DO KONETA な、体験ができたのではないか思います。

これからのまちづくりに、そして、まちづくりだけでなく普段の生活にも、「KNT」を意識して、取り入れていったらいいのかも。「小ネタがある地域は持続する」というKNT理論への理解が、一段深まったように感じました。

これからも、地域への愛着を、小ネタで育んでいきましょう。

